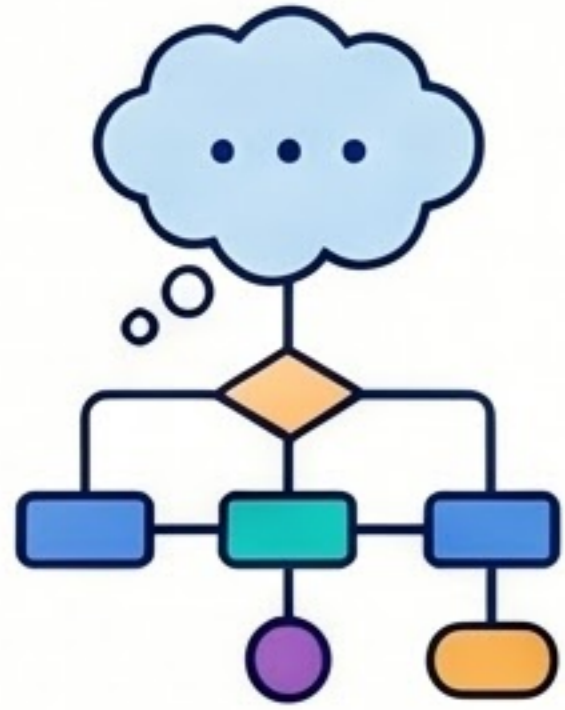


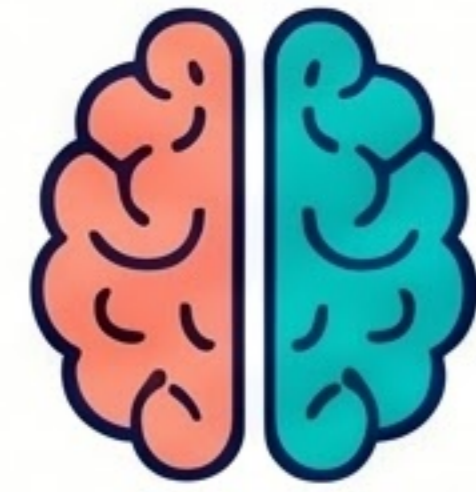
島津製作所の知財DX革命：生成AI活用から「Genzo AI」の誕生へ

プロンプトドリブン改革の核心



暗黙知の形式知化

ベテラン部員の経験や判断ロジックを徹底的に呈述化し、AIへの指らぎのない詳細な指示(プロンプト)へと損耗化しました。



ロジック化可能な労働の代替

専門知識が必要な「知的労働者のもの」をAIに置き換えるという強力なポリシーに基づき、業務を再定義しています。



Human-in-the-Loop

AIが主導して出力し、人間が最終確認・判断を行う体制を確立。AIの境界を人間のプロンプト精度で補充します。

知財業務自動化「Genzo AI」の機能

わずか15分で先行調査を完了

開発資料を入力するだけで、発明権広からクレームチャート作成までを自動実行します。



代理人レベルの中間処理案

各国特許庁からの拒絶理由通知に対し、論理的な分析と補正案を数分で生成します。



MODULE 06 契約書レビュー

不利条項の指摘と補正案を自動生成

2026年夏5以降

MODULE 05 FTO (侵害予防)

外販DBと連携し数千件を自動比較判定

2026年更以降

MODULE 02

翻訳

日本語明細書を英語・中国語へ高精度翻訳

MODULE 01

届出・出願

開発資料から特明提案書・明細書要を作成

2026年3月上旬～

MODULE 03

中間処理

拒絶理由への対応案補正案の論理的構築

2026年5月上旬

MODULE 04

先行文献調査

特許性判断の結果を出力

2026年更以降

Genzo AI

圧倒的な導入成果 (2025年度実績)



年間 8,000万～1.2億円のコスト削減

当初目標の8,000万円を超過。主に特許翻訳や先行技術調査の外部委託費を創的に圧縮しました。



研究開発者の工数を約90%削減

年間10万件に及ぶこともあった他社特許 (FTO) 調査の負担が創的に減少しました。



知財部員の工数を最大50%削減

発明届出業務などが半減し、スタッフがより戦略的な業務へシフトできる環境を構築しました。

生成AI時代の知財人材の役割



作業から戦略的パートナーへ

単純作業やロジック化可能な業務はAIに任せ、人間は鑑査・事業戦略に深く関与する役割へとシフトします。



「判断力」と「監督能力」の重視

AIが出力した特許の妥当性や権利保護の適切性を再確認し、意思決定を行う能力が不可欠となります。



安心のセキュリティ体制

国内サーバー (AWS) での管理やデータ学習への非利用など、機密性の高い知財情報を守る運用を徹底しています。